

# 身近な人の変化(不審者化)を検知する DEFENDER-Xで施設利用者の安全を確保

特定多数の人が利用する施設(学校、保育園、福祉施設等)は、部外者に対するセキュリティは強化されています。

一方、OBや元職員、あるいは施設利用者の親族等に対してはガードが下がる傾向にあります。元々は気心の知れた人が変化し悪意をもって事件を起こすケースもあり、DEFENDER-Xはこの変化をキャッチし、安全確保に貢献します。

## 来訪者に不審者がいないかDEFENDER-Xがチェック。人の感覚に頼らない

OBや元職員、親族など普段は顔パスで施設内に入れる身近な人であっても、トラブル等なんらかの要因で攻撃的な精神状態にある場合はシステムが判定し知らせます。

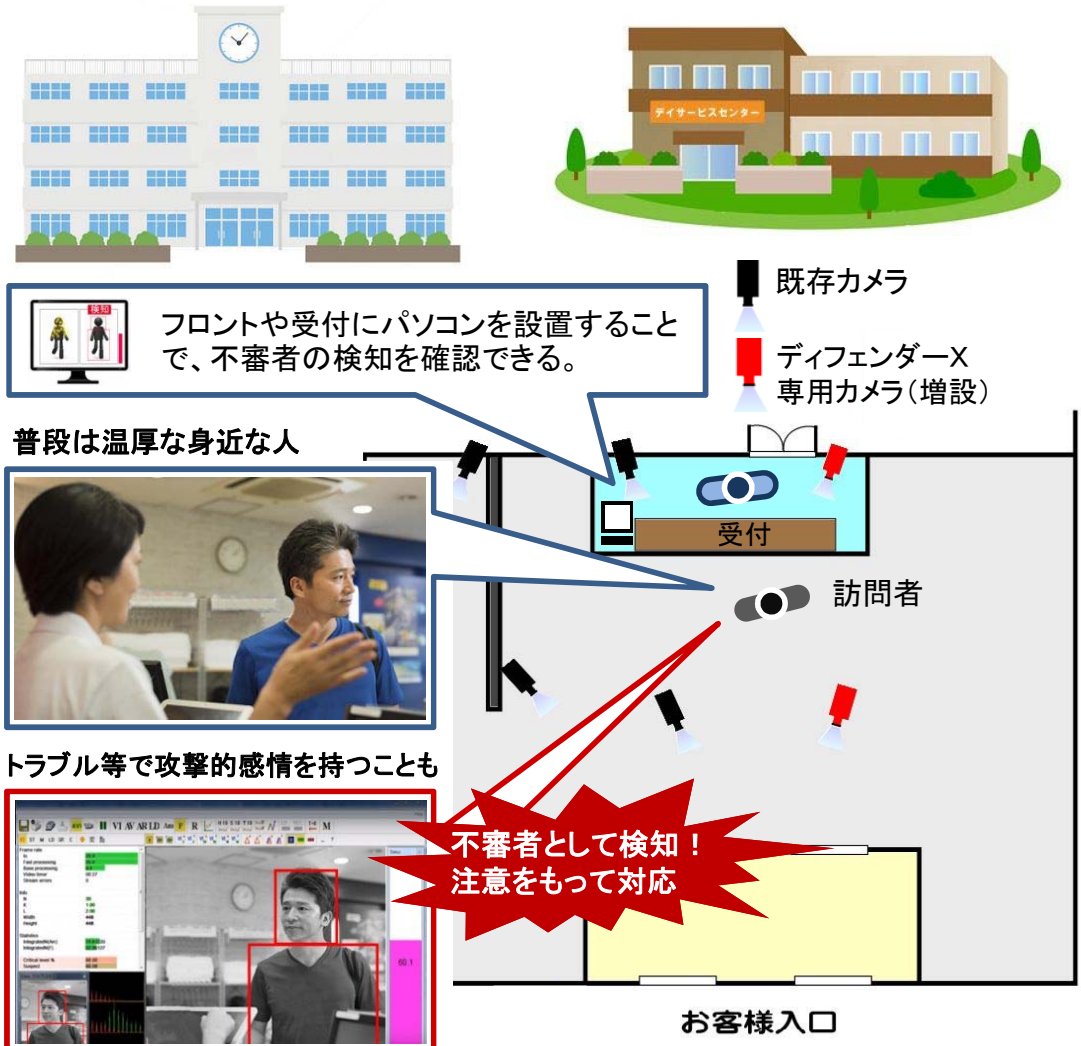
## カメラの設置場所により、内部スタッフも同時にチェックできる

内部スタッフによる犯罪やなんらかの理由で攻撃的な感情を持つに至った場合に検知。複数回、検知する人は内部スタッフでも要注意です。

## 内部スタッフや頻繁に出入りする関係者等の犯罪の抑止効果を期待できる

防犯カメラと違い犯罪をする現場にカメラが無くても大丈夫。犯罪行為に及ぶ前の精神的な高ぶりを検知しうるため、周知することで抑止効果が高まります。

学校・幼稚園・保育園・福祉施設等のさらなる安全確保に！



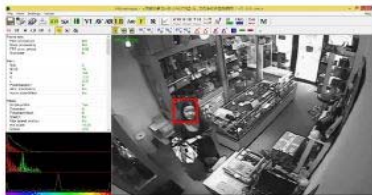
# 不審者を事前検知する 次世代セキュリティシステム

**DEFENDER-X**  
ディフェンダーXがわかる動画公開中

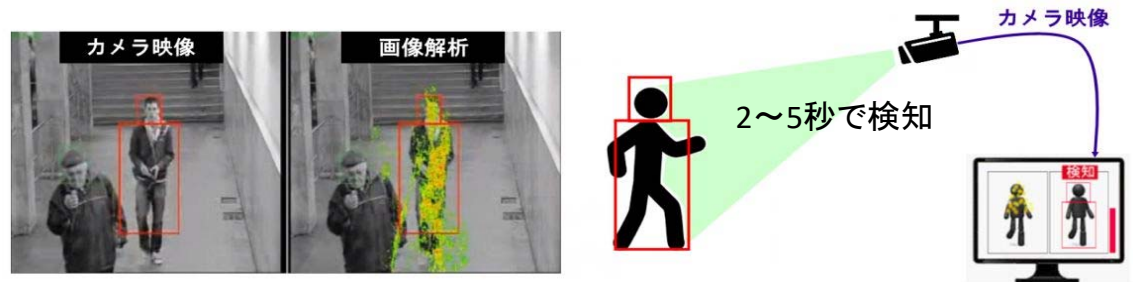
DEFENDER-Xは、犯行に及ぶ前の特有の精神状態をカメラ映像から分析し、不審者を事前に検知する、まったく新しい防犯システムです。事前のデータ登録も必要無く設置後すぐに効果を発揮。  
人は肉眼ではわからないレベルで振動しており、その振動は精神状態にリンクしています。それを解析する特許技術(ロシア・ELSYS社)により、真の防犯システムが完成しました。

## 録画映像の事後解析で犯人特定!?

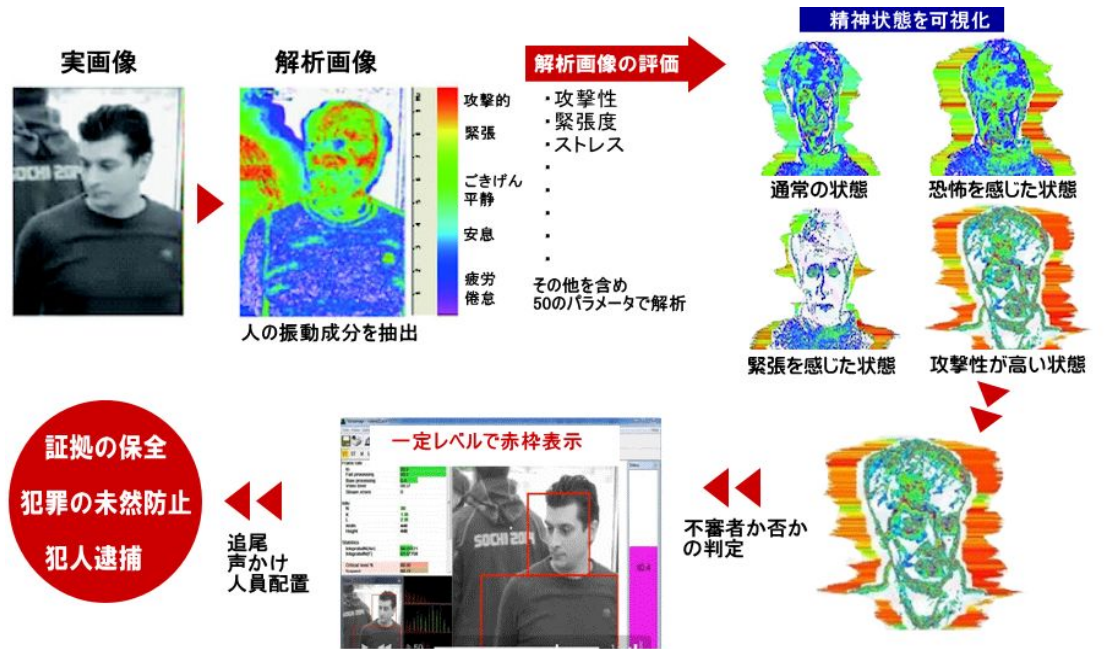
ディフェンダーXは、不審者の事前検知だけでなく、録画された映像を解析し不審者を検知することも可能です。犯人逮捕に寄与するケースもあります。



## 監視カメラ映像から精神状態を分析し不審者を事前に検知



## 振動からストレスや恐怖、攻撃性データを検出すると“不審者と判定”



## ソチオリンピックや2015年の伊勢志摩サミット、空港等で実績

ソチオリンピックでは、全ての入場ゲートにディフェンダーXが設置され期間中、2600人を不審者として検知。そのうち92%が危険物所持や入場券のない不正入場者でした。日本でも2015年の伊勢志摩サミットやラグビーの天覧試合の警備などで試験運用されたことがマスメディアでも紹介されています。